

# 成長に伴い業界の確立が求められる リラクゼーションビジネス

## ～リラクゼーションビジネスの現状と課題～

### はじめに

最近、熊本市内中心部の繁華街で間口の狭い10坪足らずの店舗でマッサージや整体の看板を掲げるお店を見かけることが多くなった。また、岩盤浴を備えた温浴施設や、エステティックサロンを併設している大型のショッピングセンターも少なくない。これらの施設の増加は、巷間言われるストレス社会の進展や、「モノ」から「コト」への消費の高まり等を背景にしていると思われる、全国で同様の傾向がみられている。しかしながら、近年急激に施設が増加したことや、次項で解説するように、これまでは「リラクゼーション業」としての定義づけがなされていなかったことなどから、同業界についての統計データの整備は十分とは言えない。

また、一部を除いては、サービスの提供に際して特別な資格が不要なことから、品質の維持が難しく、提供サービスの内容や料金等のトラブルも見受けられ、業界の確立が課題とされていた。そこで、2007年にはリラクゼーション業界の社会的認知度を高めることを目的に、一般社団法人日本リラクゼーション業協会（設立時は「リラクゼーション業振興協会」）が設立され、業界の地位向上に努めるなど、徐々に業界の確立が図られている状況にある。当研究所では、2005年度に業界動向調査として「健康・リラクゼーション関連サービス」をテーマに調査を実施しており、当時のデータとの比較を織り交ぜながら県内の動向や今後の方向性についての考察を行う。

### 1. リラクゼーションビジネスとは

ひと口に「リラクゼーションビジネス」と言っても、エステティックやアロマセラピーなど多岐にわたっており、サービスに対する利用者の捉え方によっても異なることから、以下で本稿における「リラクゼーションビジネス」の捉え方について触れておく。

2013年11月、国の統計基準に使われる日本標準産業分類の細分類に、「リラクゼーション業」が新たに追加された。従来「リラクゼーション業」は、理美容でも療術業でもないことから、大分類の「生活関連サービス業、娯楽業」の中で、中分類の「洗濯・理容・美容・浴場業」や「その他の生活関連サービス業」等に含まれ、細分類では「その他」に分類されていた。しかしながら、日本リラクゼーション業協会の調査結果等によると、事業所数や市場規模が拡大していることから、2014年の経済センサスより、中分類「洗濯・理容・美容・浴場業」の新たな細分類として「リラクゼーシ

ン業（手技を用いるもの）」が設置される。その際、「リラクゼーション業」は、「手技を用いて心身の緊張を弛緩させるための施術を行う事業所」と定義されており、医業類似行為を業とする者がその（心身の緊張を弛緩させる）業務を行ったり、手技を用いないでその（同）業務を行う事業所は該当しないとされている。

従って、近年目立つようになった「岩盤浴」や「ヨガ（ホットヨガを含む：以下同）」、「スパ」など手技を用いないものは、日本標準産業分類上では「リラクゼーション業」に該当しないことになる。しかしながら、これらの施設は心身のリラックスやリフレッシュ目的で利用されることが多く、一般的にはリラクゼーション施設として認識されていると思われることから、本稿ではこれらを含めて「リラクゼーションビジネス」と捉えて、動向や今後の方向性についての考察を行う。

## 2. リラクゼーションビジネスの種類と市場規模

### (1) ボディケア

既述のように、今回日本標準産業分類の細分類に設けられた「リラクゼーション業」に分類されるボディケアは、いわゆる「あはき法」（あん摩マッサージ、はり師、きゅう師等に関する法律）に基づく国家資格を必要とする医業類似行為以外の手技を用いて施術を行うもので、エステティックやアロマセラピーと並び、リラクゼーションビジネスの中心的役割を担っている。1990年代半ばに登場し、繁華街や駅前などで展開するクイックマッサージ店等が含まれる。国家資格と開業に際して保健所への届出が必要な「マッサージ業」と区別して、ボディケアやボディマッサージと表示している場合も多いが、一般的にはクイックマッサージとして認知されているケースが多い。2012年の市場規模は510億円とされている（矢野経済研究所推計）。

### (2) エステティック

エステティックは、以前より美顔や痩身、脱毛

等の美容を目的として行われていた全身美容のことで、サービスを提供するエステティックサロンは、これらの美容に加えて癒しの機能も提供しているケースが多い。化粧品や器具を用いた施術を行うことから、これらの製品を含めたエステティックの2012年の市場規模は3,491億円とされている（矢野経済研究所推計）。

### (3) アロマセラピー

アロマセラピーは、もともとは植物から抽出された精油の香りや成分を活かして、ストレスや疲労など心身のトラブルを改善し、健康増進や美容に役立てようとする自然療法である。近年では、生活者のアロマや香りへの関心が高まり、アロマセラピー関連の製品やサービスだけでなく、精油を配合した化粧品や柔軟剤等の日用品の需要も拡大してきており、これら広義の製品・サービスを含めたアロマセラピーの2011年の市場規模は2,654億円とされている（日本アロマ環境協会推計）。

図表1 主なリラクゼーションビジネスの種類と内容

種類	市場規模 (億円)	内容
ボディケア	510 (2012年)	手技を用いて心身の緊張を弛緩させるための施術を身体全体に行うもの。
エステティック	3,491 (2012年)	美顔、痩身、脱毛などを行う全身美容。マッサージ、パックや機器を利用した施術を行うもの。
アロマセラピー	2,654 (2011年)	植物から抽出したエッセンシャルオイル（精油）を使用したマッサージ。アロマ（芳香）の作用でリラックス、リフレッシュ効果を促すマッサージ。
リフレクソロジー	512 (2012年)	足裏にある身体の臓器や器官に通じる反射ゾーンを刺激する療法。刺激の少ない西洋式と、刺激が特徴である東洋式がある。
スパ	7,088 (2007年)	温浴（温泉）や海水を使用した療法に合わせ、各種自然療法、伝統療法を総合的にし、美容、健康、くつろぎと癒しを提供するもの。
ヨガ	210 (2006年)	体操、瞑想をし、呼吸を整えることで心身の健康を促すもの。
岩盤浴	不明	自然の鉱石やプレートに熱を加え、その上に横になり温熱効果を得る湯水を使用しない温浴法。遠赤外線とマイナスイオンでサラサラの汗をかくのが特徴。

注）市場規模出典元：ボディケア、リフレクソロジー、エステティック（矢野経済研究所）、アロマセラピー（日本アロマ環境協会）、スパ（経済産業省）、ヨガ（BRICs経済研究所）

#### (4) リフレクソロジー

リフレクソロジーは、足裏にある臓器や器官に通じる特定のゾーン（反射区）を刺激することにより、血行を促進し、身体の新陳代謝を活発にさせることで、健康増進や頭痛、腰痛などの体の不調を解消する施術療法である。重視する反射区や刺激の強弱、補助具の有無等で欧州式（重視する反射区＝腹腔神経叢・横隔膜、刺激＝弱、補助具なし）と東洋式（重視する反射区＝副腎・腎臓・輸尿管・膀胱、刺激＝強、補助具あり）があり、東洋式には中国式、台湾式、タイ式などの種類がある。一般的に欧州式はリラクゼーション目的、東洋式は治療目的とされているが、一部の東洋式でもリラクゼーションの要素を取り入れるようになってきている。リフレクソロジーの2012年の市場規模は512億円とされている（矢野経済研究所推計）。

#### (5) スパ

わが国では各地で温泉が噴出することから、温浴を利用した自然療法は古くから定着しているが（湯治）、近年リゾート地や高級シティホテル等で提供されているスパ・サービスには明確な定義がない。一般社団法人日本スパ協会によると、スパ（SPA）の語源から大別して①温泉・温泉地、②温泉や鉱泉を利用した治療を提供する保養施設、③スパ・ムーブメントに分けられるが、現在一般的に認識されているスパは、前記の③スパ・ムーブメントのことを指すとしている。スパ・ムーブメントの歴史は浅く、1991年にアメリカで確立されたとされており、スパ体験を通じて「安らぎ、気づき、再生、至福」を実現することと言われている。このように定義も明確でなく、サービスを

提供している施設がエステティックやアロマセラピー等の他のリラクゼーションサービスを提供していることから、市場の詳細も不明だが、経済産業省が2009年に発表した「我が国におけるスパ・サービスの現状と展望に関する調査研究」では、2007年の市場規模は7,088億円と推計されている（他のリラクゼーションサービスを含めた規模と推測される）。

#### (6) ヨガ

もともとインドで発達したヨガに筋力トレーニングの要素を加えて改良したパワーヨガや、高めの室温と湿度の中で行うことで関節への負担が少なく、大量の汗をかいて新陳代謝を促すホットヨガが、一般的にヨガに分類されている。近年では、これらのヨガに加え、身体に余計な負担をかけずにコアの筋肉を鍛えるピラティスを含めたサービスの人気も高い。ヨガ専用のスタジオを設けている施設だけでなく、フィットネスクラブやスポーツジム等のメニューに取り入れているところも少なくなく、2006年の市場規模は210億円とされている（BRICs経済研究所推計）。

#### (7) 岩盤浴

岩盤浴はわが国独自のリラクゼーションサービスで、その発祥は療養・静養を目的とした湯治場として名高い秋田県の玉川温泉で、地熱のある岩肌にごザを敷いて横になる温熱浴を岩盤浴と称している。岩盤浴は、サラサラの汗を大量にかくことで新陳代謝を促すことから、ダイエット効果が高いとされ、2000年頃から全国に岩盤浴施設が相次いで誕生している。

### 3. ボディケア/リフレクソロジービジネスの動向

ここで、市場規模の推移を把握できるボディケアとリフレクソロジーについて、市場形成の背景と市場規模の推移についての考察を行う。

#### (1) 背景と市場規模

ボディケアは、1994年に東京都内で“15分マッサージ”を掲げる「コリとれーる」を都内の鍼灸院が開店したことが発祥とされている。駅周辺や

繁華街、オフィス街に店舗を構え、短時間で気軽に施術を受けられることから評判となり、1990年代には「てもみん」や「リラックス」、「ラフィネ」等、多数の企業が参入し市場が形成された。ボディケアの市場規模は2012年時点で510億円となっており、今後も2013年540億円、2014年555億円、2015年565億円、2016年575億円と順調に拡大していくことが予測されている（いずれも矢野経済研究所推計・予測）。

またリフレクソロジーは、1996年に東京都内で開業した「クイーンズウェイ」が市場の形成と拡大に貢献してきた。利用しやすい店舗立地や短時間から利用できる気軽さ、明瞭な料金システム等が支持を受け、OLを中心とする女性に広がり、その後、「フットセラピー」や「トータルセラピー」等の他社の参入に伴い、主婦層や高齢者層も取り込みながら市場を拡大してきた。加えて、リフレクソロジー専門店以外の整体やボディケアの店舗も、リフレクソロジーを提供サービスに取り入れるなどしている。リフレクソロジーの市場規模は、2011年に504億円となり、2012年には512億円、2013年には515億円と順調に伸ばしてきた

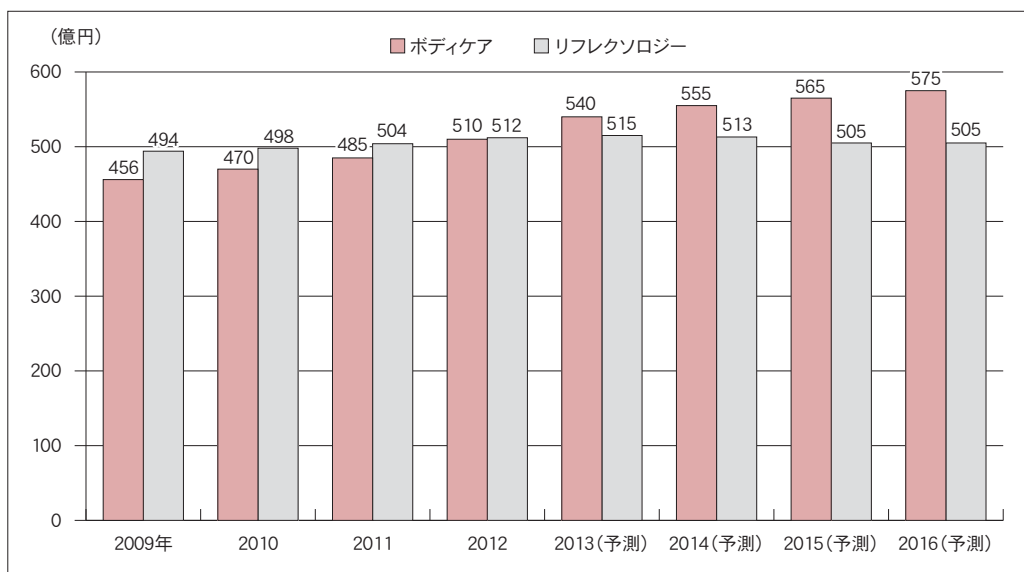
が、2014年以降は横ばいから減少に転じると予測されている（いずれも矢野経済研究所推計・予測）（図表2）。

## (2) 業界が抱える問題点

これらのビジネスは、今後もストレス社会の進行や、消費者の価値観がモノからコトへとシフトしていることに加え、健康や美容への飽くなき追求等により比較的堅調に推移するものと思われるが、店舗展開に伴う施術者の確保という根幹に関わる問題も抱えている。現状では、短期間の学科と技術の講習だけでスタッフとして現場に配置されるケースも少なくないため、技術やサービスの質的な問題をクリアすることは業界全体の課題となっている。

また、様々な業界にみられるディスカウンターの参入と台頭も見逃すことのできない問題となっている。参入時点は低価格という魅力に惹かれる利用者も少なくないが、一定水準以上の技術やサービスを求める要求（欲求）も同時に存在することから、前述の質的問題と価格のバランスを図ることが重要な問題となっている。

図表2 ボディケアとリフレクソロジーの市場規模の推移



資料：矢野経済研究所「リラクゼーションビジネスの実態と展望」2013年版

## 4. 熊本県内の動向と施設数からみえる特徴

### (1) 主なリラクゼーション施設数の変化

既述の通り、当研究所では2005年度に業界動向調査として「健康・リラクゼーション関連サービス」をテーマに調査を実施していることから、2014年4月時点の熊本県内の主なリラクゼーション施設について、2005年度調査と同様の資料と基準で調査し、この間の変化をみたものが図表3である。なお、1つの施設が複数の提供サービスについて登録しているケースがあるため実際の施設数とは一致しない。また、資料の性格上「ボディケア」には、国家資格が必要とされるあん摩マッサージ指圧・はり・きゅうも含んでいることにも注意を要する。

施設数が2014年時点で50軒を超える種類をみると、まずボディケア（あん摩マッサージ指圧・はり・きゅうを含む）について、熊本県全体では2005年の355軒が2014年には448軒となり、この間93軒増加している（増減率+26.2%）。同様に熊本市をみると、2005年の162軒が2014年には212軒となり、この間50軒増加している（増減率+30.9%）。熊本県全体に占める熊本市の割合は、2005年の45.6%（162/355）から2014年には

47.3%（212/448）となっており、わずかではあるが熊本市のシェアが上昇している。

次にエステティックサロンをみると、熊本県全体では2005年の307軒が2014年には457軒となり、この間150軒増加し（増減率+48.9%）、ボディケアの増加率を上回っている。同様に熊本市をみると、2005年の200軒が2014年には259軒となり、この間59軒増加している（増減率+29.5%）。熊本県全体に占める熊本市の割合は、2005年の65.1%（200/307）から2014年には56.7%（259/457）となっており、10p近く熊本市のシェアが低下している。

アロマセラピーについては、熊本県全体では2005年の49軒が2014年には98軒となり、この間49軒増加し（増減率+100.0%）倍増している。同様に熊本市をみると、2005年の29軒が2014年には55軒となり、この間26軒増加している（増減率+89.7%）。熊本県全体に占める熊本市の割合は、2005年の59.2%（29/49）から2014年には56.1%（55/98）となっており、エステティックサロンと同様に熊本市のシェアが低下している。

図表3 熊本県内の主なリラクゼーション施設数の変化

種 類	熊 本 県			うち熊本市		
	2005年(10月)	2014年(4月)	増減	2005年(10月)	2014年(4月)	増減
ボディケア（あん摩マッサージ指圧・はり・きゅうを含む）	355	448	93	162	212	50
エステティックサロン	307	457	150	200	259	59
アロマセラピー	49	98	49	29	55	26
リフレクソロジー	10	66	56	7	45	38
ヨガ教室（ホットヨガを含む）	—	17	—	—	14	—
岩盤浴	22	18	△4	11	8	△3
合 計	388	656	251	247	381	120

資料：N T T タウンページ。2005年(10月)は2005年10月11日現在、2014年(4月)は2014年4月24日現在。

※「ヨガ教室（ホットヨガを含む）」の2005年時点の施設数は不明。

※上記施設数は、1施設が複数種類で登録しているケースがあるので、実際の施設数とは一致しない。

リフレクソロジーについては、熊本県全体では2005年の10軒が2014年には66軒となっており、この間+56軒の大幅な増加をみせている。同様に熊本市をみると、2005年の7軒が2014年には45軒となっている。この間の増加が+38軒となっており、県全体の増加のうち約7割が熊本市で増加していることになる。熊本県全体に占める熊本市の割合は、2005年の70.0%（7/10）から2014年には68.2%（45/66）となっている（図表3）。

## （2）施設数からみえる特徴

このように、熊本県内の主なリラクゼーション施設数は総じて増加傾向にあり、その市場は拡大していることが予想されるが、他県との比較が可能なボディケアとリフレクソロジー施設数から熊本県のポジショニングをみとめることにする。なお、出典が異なり、あん摩マッサージ指圧・はり・きゅうを含まないことから、前節「（1）主なリラクゼーション施設数の変化」の施設数と異なっている。

## おわりに

これまでみてきたように、あん摩マッサージ指圧等の一部を除いては国家資格を必要としない施術によって開業・展開することが可能なリラクゼーションビジネスは、施設数は増加傾向にあり、市場も拡大している数少ない成長産業とみることができる。従って、今回経済センサスの中でも「リラクゼーション業」として位置付けられたと考えられる。今後は徐々に業界を俯瞰する統計資料等の整備も進み、客観的な視点を取り入れた事業戦略の展開が可能になってくることだろう。合わせて、業界の確立と更なる地位向上に向けては、業務の性格上、提供サービスの優劣が施術者自身の個人的なスキルに負うところが大きいことから、個々のスタッフの技術力の向上は言うまでもないが、競合他社との差別化のためには接客サービスの質の更なる向上が求められる。本誌来月号では、利用者側のニーズ等に関するネット調査の結果に基づいたレポートの掲載を予定している。

矢野経済研究所に調べによると、全国のボディケアとリフレクソロジー施設数は5,355軒となっている。施設数が最も多い都道府県は東京都の818軒、次いで大阪府の582軒となっており、この2地域が他を大きく引き離している。以下、神奈川県295軒、愛知県の291軒と続いており、200軒以上の施設があるのはいずれも大都市圏に位置する地域であることがわかるが、東京都と大阪府の突出ぶりからみえてくることは、単に人口が多いということだけではなく、昼間人口の多い業務都市への施設の集中が顕著なことだろう。

そのような中、熊本県の施設数は89軒で全国における順位は18位、九州（沖縄を除く）では福岡県（268軒）に次いで2番目に多くなっている。それ以外の九州の施設数をみると、長崎県が52軒（28位）、鹿児島県が50軒（29位）、宮崎県が48軒（31位）、大分県が34軒（36位）、佐賀県が17軒（47位）となっており、熊本県の施設数は相対的に多いと思われる。

図表4 ボディケア・リフレクソロジー施設数

順位	都道府県	施設数
1	東京都	818
2	大阪府	582
3	神奈川県	295
4	愛知県	291
5	兵庫県	282
6	福岡県	268
7	千葉県	238
8	埼玉県	200
9	広島県	157
10	京都府	126
15	沖縄県	98
18	熊本県	89
28	長崎県	52
29	鹿児島県	50
31	宮崎県	48
36	大分県	34
47	佐賀県	17
全国計		5,335

資料：図表2に同じ

注）あん摩マッサージ指圧・はり・きゅうを含まない